教育のひろば

小幡幼稚園の取り組み

子どもたちの興味や関心を大切にしながら…

小幡幼稚園
園長　中島好美
園児　23人

スクーターでGO!GO!（年少・ひよこ組）

登園すると「今日はお外で遊べる？」と毎日戸外遊びを楽しみにしている6人の子どもたち。「いいよ」の言葉と同時に帽子をかぶり、鍵を片手に飛び出していきます。

鍵？スクーターの鍵です。遊んだスクーターを自分たちで片付けられるように名前付きの鍵を作りました。スクーターが大のお気に入りで、毎日園庭で元気よく乗っています。鍵をかけるとパトカー。さらに回すと消防車。次はレスキュー車、変身スクーターで遊びます。そして、子どもたちから遊びの途中で止めて置く駐車場やガソリンスタンドが欲しいとの思いを受け止め、駐車場の看板や計量機などを作り楽しく遊べるようにしています。

「きゅうゆちゅう～！」

「だいじな　かぎだよ！」

片足を乗せて全員が乗れるようになると競走が始まりました。まだ、上手に乗れない子もいますが、毎日乗っている成果が出てきました。「レディーゴー」の合図でスタート。手が冷たくてもへっちゃら。向かい風にも寒さにも負けず、毎日スクーターに乗り、楽しんでいます。今日も鍵をかけ、燃料満タン、出発です。

「みんなでやりたい！」（年中・かなりあ組）

朝の支度を済ませると、つばめ組さんに誘ってもらい、「田んぼの田」をしたり、ドッジボールをしたり、集団遊びを楽しむかなりあ組の子どもたち。つばめ組さんと一緒に楽しめるようになると、今度は「かなりあ組みんなでやりたい！」と自分たちで田んぼの田の準備を始めました。

ラインカーを持ってきて線を引いて、砂が舞わないようジョウロで水をまく。いつも、つばめ組さんが用意してくれるのをちゃんと見て、覚えていたようです。

「ぜったい　とられないぞ！」

人数が集まらないと「仲間、集めてくる！」と声を掛けに行き、仲間集めもばっちりです。鬼の役も自分たちで相談して、さっそく開始です！

鬼にタッチされても、友だちが助けてくれる面白さを感じながら、とても盛り上がっていました。

年長児からの刺激を受けて主体的に準備を行い、友だちと一緒に楽しめる、そんな成長を感じた遊びになりました。

試してみるね！（年長・つばめ組）

一学期、つばめ組の子どもたちは生き物に興味を持っている子が多く、家にいたアゲハチョウの幼虫を園で飼うことになりました。

何を食べるのか図鑑で調べると、レモンやミカン、キンカンの葉を食べるとわかり、「家にある！」という子が順番に持ってくることになりました。毎日世話をしながら観察し、幼虫の変化をいち早く発見した子が友だちに話し、みんなで確認しながら成長を喜んでいました。

幼虫がきれいなアゲハチョウになった時はみんなで大喜び！「元気でね～。」と、小幡幼稚園全員で見送り、その後アゲハチョウを見かけると「会いに来てくれたんだ。」と思い切り手を振っていました。

園庭で小さなカマキリを捕まえ、飼い方を調べると、エサは「生きた虫」とわかりました。虫を観察ケースに入れ、みんなでじっと見ていました。お腹がすいている時には両方のカマで2匹同時に捕まえること、カマをなめて掃除することなど、たくさんの発見がありました。そして、少しずつ大きくなってきたある日、なんとカマキリが脱皮したのです。カマも足もそのままのきれいな姿で。この大発見を幼稚園中に報告。その後も、元気がなくなると「どうしたんだろう」と子どもたちなりに考え、いろいろな方法を試しながら大切に育ててきました。

「アゲハチョウになった！」

「これ、なんていうバッタだろう？」

秋の自然に関われるよう八幡山へ出かけた時には、虫が苦手だった子が友だちと一緒にバッタを捕まえていて…。「試したら捕まえられたんだ！」と得意気でした。

春・夏・秋と子どもたちの興味を受け止め行ってきた生き物の飼育で、観察する目や疑問を感じ調べたり試したりする力が育ってきていると感じています。

「教育のひろば」とは
各学校や幼稚園の特色ある取り組みを紹介するコーナーです。編集委員は、教育委員会の広報委員会に所属する各学校や幼稚園の教員です。

提言

子どもの成長の中で…

甘楽町公立幼稚園
ＰＴＡ連絡協議会
会長　青木 裕子

子どもの成長というのは待ってはくれません。生まれてすぐの辛かったあの時も、今思えばあっという間に通過してしまった気がします。

私には8歳の男の子と6歳になる双子の男の子がいます。双子を妊娠した時から辛いと心では思っていましたが、私の想像を絶するものでした。

同じ時間に授乳をして抱っことおんぶで背負って寝かし付けますが、同時には寝てくれず一緒に寝てくれる時間が一時間という日々を過ごしました。歩けるようになると、ちょっと目を離すと3人で隠れてイタズラをしていたり、お兄ちゃん対双子でケンカをしていたりと悪戦苦闘な毎日を送っていました。

そして保育園に入園。子どもがいない家ではスムーズにいく家事、ゆっくり食べられる昼ご飯、誰にも邪魔されないお昼寝、でもどこか寂しい気持ちもありました。迎えに行くと、一人でも頑張ったという顔で待っている子どもたち。

私自身変わったことは、心に余裕ができ、家庭での育児に対するストレスが減り、自分でも全然違うのがわかりました。「人間、心に余裕がなくなると周りが見えなくなるってこのことかな？」と思いました。

子どもの成長とともに自分が小さかった時、両親にしてもらったことや思ったこと、育児を通して学んだことをいかして、子どもが困ったときは一番に手助けできる親でいたいと思います。